

市民のみなさん、南国市は昭和三十四年十月一日市制を施行して以来、本年で二十周年を迎えました。この二十年間をかえりみずいろいろな苦難の道をたどってきましたが、ようやく人口も四万五千人と定着し、地域発展のきざしがみえます。四十七年には市庁舎が落成、その後も諸施設の改善が続き、五十三年には国立医科大学が開校され、工専、高知大農学部とならんで学園の府としてようやく発展の基礎ができました。ささやかながら市民待望の市立図書館が発足しました。ご報告とともにご指導とご援助いただいたみなさんに厚くお礼を申し上げます。このように、おかげさまで市政が日々進展を続けていることは、市民のみなさん、関係各方面のご指導とご支援のたまもので深く感謝しています。千年の昔、比江の里に土佐の

国庁がおかれ、古代文化の花を咲かせた頃よりこの地域は土佐で最も早くひらけました。そして舟入疎水の完成により香長平野は本格的な田園地帯としてひらけました。現代に生きる私たちは、先人の築いた古い文化都市を大切にしながら、自然と近代社会の調和を乱すことのないよう心がけなければなりません。この基本理念にもとずき、当面する行政課題に対処していくつもりです。「高知空港」の整備、拡張は県政の柱として進んできました。八十数年の美田をつぶすことは、市内農業省の生活に大きな影響を及ぼします。騒音などの公害も予想されます。地域の方がたの深いご理解とご協力をいただかなければなりません。また、またそのご希望に誠意をもって応えることも必要です。次に四国横断自動車道の建設です。領石地区には「南国インターチェンジ」が予定されて、現在

地元との折衝が行われています。十市パークタウン、国立医科大学周辺など新しい「まちづくり」や道路網の整備など、課題が目白押しです。これらの事業の進捗にともない、私たちの「ふるさと」はこれからは変わらざるを続けていくでしょう。私どもは、このことが市民の幸せにつながっていくよう最大の努力をそそぎ、自然と近代社会が調和のとれた、たくましい田園産業都市をめざしてまい進する所存です。文化的な事業に「南国市史」の編纂があります。文化財の宝庫といわれるわが郷土の先人たちの姿をえがいたもので、このほごその上巻ができました。執筆していただいた先生がたのご苦勞にしてお礼を申しあげます。南国市が市制二十周年を迎えることができましたのはふるさとに限りない愛情をもたれた市民のみなさんのご協力のたまものであり、また「南国市」の建設に多くの貢献をされた先輩市長、議会議員各位、関係機関各位に心から尊敬と感謝のまことをつげます。今後とも先人の築いた遺産をさらに発展させ「地方の時代」という言葉にふさわしい自治体に市民のみなさんといっしょに成長させていくことを念願しています。

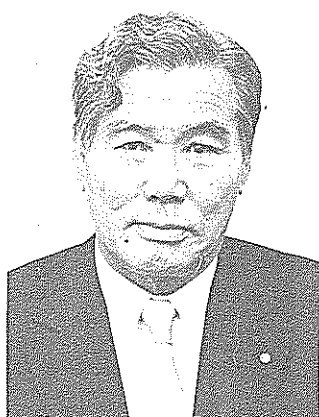
昭和三十四年、理想都市建設を目標に、県下で九番目、最後に市制をしたわが南国市は、国、県など関係機関のご指導とご協力のもとに市民、執行部、議会が一丸となった努力により、二十周年を迎えました。この二十年間は決して平穏ではなく、市制施行直後の財政窮乏、台風などの災害は市民生活を物心両面からゆるがせたもののその度にこれを克服してきました。反面、うれしいこともありました。四十五年に福祉の丘、年越山に「土佐希望の家」をお迎えしたことで、「清風園」とともに眺望絶佳の高台に並んだ姿は、老人を大切に、恵まれない方がたに温かい手という行政を推進する南国市の面目躍如たるものがあります。そして教育施設の整備も進み学園都市としての基盤が確立されてきました。近代都市として発展するために数多くの事業が山積していますが、市民のみなさんの

ご協力とたくましい創造力、恵まれた立地条件を活用すれば必ず完成できると確信します。そして名実ともに県下第二の都市にふさわしい地位を確立することは可能だと信じます。ローマは一日にして成らず」と申しますが、この二十年間は一大飛躍のための体制づくりの期間であり、その基礎はできあがったと考えます。私たちは、先輩の英知と努力で築かれた素晴らしいわが南国市をさらに充実、発展させ次の世代に引き継がなければならぬ責務があります。その前途には険しいものがありますが、しかし、その難問に積極的に対処し、市民生活の安定と福祉の向上を図らなければなりません。私も議員一同は、二十周年を契機に市政発展に最大の努力を尽くす決意を新たにします。市民のみなさんの一層のご理解とご協力を心から願うとともにご多幸を心から祈念いたします。



南国市長
小笠原喜郎

地元の折衝が行われています。十市パークタウン、国立医科大学周辺など新しい「まちづくり」や道路網の整備など、課題が目白押しです。これらの事業の進捗にともない、私たちの「ふるさと」はこれからは変わらざるを続けていくでしょう。私どもは、このことが市民の幸せにつながっていくよう最大の努力をそそぎ、自然と近代社会が調和のとれた、たくましい田園産業都市をめざしてまい進する所存です。文化的な事業に「南国市史」の編纂があります。文化財の宝庫といわれるわが郷土の先人たちの姿をえがいたもので、このほごその上巻ができました。執筆していただいた先生がたのご苦勞にしてお礼を申しあげます。南国市が市制二十周年を迎えることができましたのはふるさとに限りない愛情をもたれた市民のみなさんのご協力のたまものであり、また「南国市」の建設に多くの貢献をされた先輩市長、議会議員各位、関係機関各位に心から尊敬と感謝のまことをつげます。今後とも先人の築いた遺産をさらに発展させ「地方の時代」という言葉にふさわしい自治体に市民のみなさんといっしょに成長させていくことを念願しています。



南国市議会議員
橋本一三



自然と近代社会が調和のとれた
たくましい田園産業都市をめざして

市民憲章

わたしたちの郷土南国市は、土佐文化の発祥地、そしてまた、清新な生産都市であります。この誇りのうえにたち、さらに一大飛躍発展をとげるために、次の信条を守りましょう。

- ☆文化財と自然を保護し、新しい文化のかおり高い歴史のまちを築きましょう。
- ☆青い空、清い海、緑の山野、そして豊かな太陽のふりそそぐ、健康で明るいまちにいたしましょう。
- ☆川は市民の顔、清くて豊かな流れをつくりましょう。
- ☆第三日曜日は家庭の日、全戸笑顔で子供を守り育てましょう。
- ☆老人は市民の宝、小さい親切運動と福祉の豊かなまちにいたしましょう。
- ☆三悪を追放し、交通事故のない住みよいまちにいたしましょう。